

工場排水口など視察

水俣市の公害発生源総点検

市民代表らが熱心に

水俣市の公害発生源総点検二日目の十二日は、大崎市婦人会長ら市民代表がチツソ水俣工場の排水口やフタ飼育場などを見た。

一行は婦人会、水俣保健所、駐在事務所、市役所、市議会、水俣警察署など十人で、まず午前九時から百間港に出ているチツソ水俣工場の排水口に行き、同工場夏

目公害課長らの説明を聞いた。工場は現在、時間七千トの水を使っているが、そのうち四千トをこの排水口に流している。残りは工場内での循環方式を取っている。

このあと、近くの数ヶ所プールも見た。このプールは塩化ビニール工場からの微量の無機、有機水銀を含んだ廃液を処理し、総水銀が

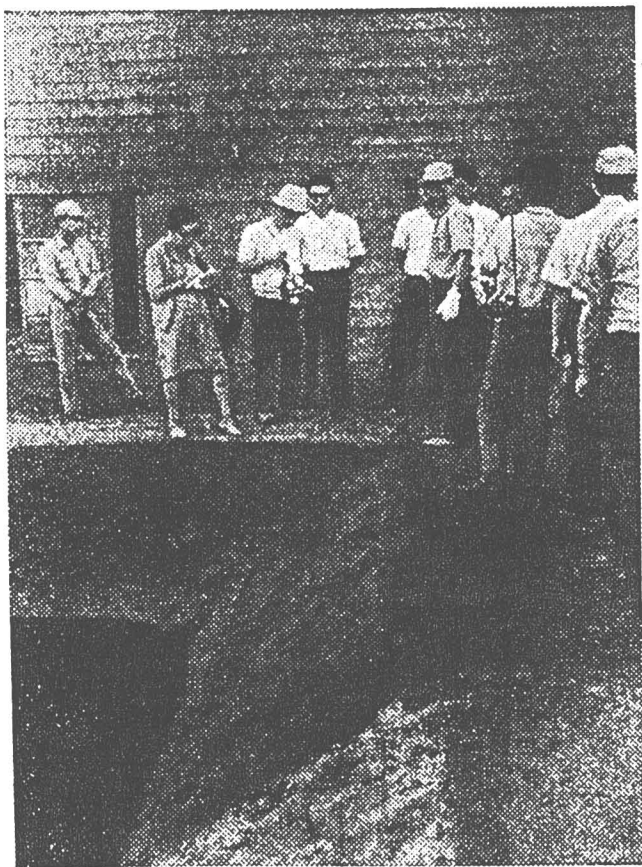
ほとんどなくなった状態の廃液をためるもので、一日の量は六ト。昨年六月からこの方式が採用されている。熊大入鹿山教授らによ

って開発された。現場では大崎婦人会長らが「もう有機水銀は出ないですね」と念を押していた。

引き続き、都市排水と工場排水が合流している田在川では、都市

排水がかなり汚染源になっていることもわかり「こんなところにも公害発生源があるんだ」と、改めて知らされた様子だった。山手町のフタ小屋では、あまりの不潔さにびくり。口々に「移転してもらわなければ、付近住民はたまらんだろう」と話していた。

今後、こうした調査を今月いっぱい続け、公害対策の資料にする。



チツソ水俣工場の排水口付近を見る市民代表たち